

世界へ発信！

北の縄文だより

vol.2



～みんなの知らない「JOMON World」～

社会教育課社会教育・文化財グループ (☎ 74-3010)

今からおよそ15,000年前、長く続いた氷河期が終わり、地球は温暖な気候へと向かいました。気候の温暖化とともに、東日本ではドングリやクリ、クルミなどの落葉広葉樹が増えていきました。海面も少しずつ上昇して、人々は海にも積極的に乗り出し、いろいろな資源を活用するようになります。

遊動生活から定住生活へ

縄文時代より前の時代を「旧石器時代」といいます。旧石器時代の人々は、食料である動物を追いかけて、移動しながら生活をしていました。縄文時代になると、周りに広がる自然が豊かになっていきます。森や海の豊かな恵みをもとに、食料を求めて移動する必要がなくなったことから、縄文の人々は「ムラ」をつくって長い間同じ場所で生活するようになりました。これを「定住生活」といいます。

「定住生活」はアジアの中でも縄文時代と同じ頃に始まったと考えられていますが、それは「農耕」によるものでした。しかし、縄文時代には農耕は行わず、狩りや漁をしながら定住生活をしていたのです。

この生活スタイルの違いは大きなもので、しかも1万年以上も長く続いた文化は世界中を見ても縄文時代以外にはありません。このことは、縄文文化が世界遺産としての価値を持つ大きなポイントの一つといえます。



▶復元された
竖穴建物

「北海道・北東北の縄文遺跡群」の価値

世界文化遺産となった17の遺跡を見ていくと、縄文時代を通して、定住生活がどのように始まり、定着・発展していったかを知ることができます。

「ムラ」がつくられた場所も山の中から海辺までさまざま、その環境に応じて食料を得るための技術や道具が発達していきました。それだけではなく、ストーンサークルや土偶といった、縄文人が自然の恵みに感謝したり、いろいろな祭りや儀式を行ったことを示すモノも多く見つかっています。これらの遺跡が、開発の影響を受けず、保存状態が良好であったことも評価されたポイントです。

「北海道・北東北の縄文遺跡群」は、北東アジアにお

いて、農耕文化以前の人類の生活や精神文化を伝える貴重な遺産である、ということが認められ、世界文化遺産となったのです。

銚先



骨や角で作られた釣針



「アプタ・フレナイの会」からのお知らせ

世界文化遺産の「縄文遺跡群」で活動する会員大募集！

皆さんもご承知の通り、北海道・北東北の縄文遺跡群の17遺跡が昨年に世界文化遺産に登録されました。我が町の「史跡 入江・高砂貝塚」もその一つです。

「アプタ・フレナイの会」は、縄文文化の伝承を目的に活動して、発足19年目を迎えます。今後は世界文化遺産のある町として、関係市町村や他のサークル仲間との連携を図り、「町づくり」にも大きく関わる活動が期待されています。

縄文サークル「アプタ・フレナイの会」の仲間と共

に活動していきませんか？

皆さんの参加をお待ちしています！

■問合せ

アプタ・フレナイの会代表
神馬 久夫 (☎76-1173)
社会教育課 (☎74-3010)



アプタ・フレナイの会
キャラクター
「フレナちゃん」